

# 1 市場動向の概要と対策

## (1) 野菜

全体の動向と見通し

12月と1月の実績

(東京都中央卸売市場)

区分 品目	12月の取扱実績(計)				1月の旬別取扱実績							
	12月		12月		上旬				中旬			
	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数	158,534	100	181	81	31,243	109	229	77	44,573	90	190	81
だいこん	16,871	103	47	58	3,722	119	63	57	4,331	82	50	54
にんじん	9,746	96	76	72	1,768	122	85	77	3,255	107	63	58
はくさい	19,360	101	28	67	3,737	116	32	40	4,419	76	27	45
キャベツ類	13,988	99	66	59	3,048	105	89	66	4,612	87	77	62
ほうれん草	2,472	109	333	75	461	99	535	109	832	111	377	77
ねぎ	6,887	93	193	127	1,300	105	248	93	1,862	84	174	94
レタス類	8,417	109	182	54	1,862	102	288	68	2,518	100	237	63
きゅうり	5,794	105	289	64	1,912	108	308	61	1,752	107	309	54
なす	2,500	106	412	91	860	104	412	90	988	119	362	70
トマト	6,086	115	282	72	1,806	128	262	75	1,924	110	263	74
たらの芽	8	103	3,333	101	3	106	3,812	99	7	111	3,493	100
にら	790	104	527	65	178	103	805	94	305	94	513	68
えだまめ	14	75	1,265	124	1	101	1,959	102	4	192	1,843	104
生しいたけ	1,596	79	607	122	333	91	768	112	428	72	677	122
ばれいしょ	7,791	94	80	76	1,374	113	90	77	2,590	89	89	78
たまねぎ	11,472	92	63	78	1,673	98	65	74	3,429	81	67	75
えのき	1,216	105	419	75	246	96	469	80	368	90	382	77
しめじ	878	107	544	68	153	94	609	75	254	87	570	89
なめこ	321	93	528	98	64	104	614	101	102	87	585	104

### 概況

正月の5日は、2002年の幕開けとなる初荷。「としこそは」の願いをこめて威勢のよいせり声が響きわたった。

初市で注目されたのは恒例の「宝船」で大きい物が築地市場で25万円。大田市場は一回り小ぶりなものが15万円。梅の木としいたけの原木の盆栽に花としいたけをあしらった「飾りしいたけ」は3,500~2,000円程度でせり落とされた。

さて、1月の野菜は前月に引き続き関東平坦地の秋冬もの主体に、四国・九州など西南暖地もの出回りとなったが、全体的に潤沢な出回りとなり、消費不況も尾をひいて厳しい年明けとなった。

野菜全体の入荷量は前年比5%前後の増となり、販売価格は200円/kg強と安く前年に比較して約20%下回った。

だいこん、にんじん等根菜類は前年比約5%増となり、販売価格は前年比30%安。はくさい、きゃべつ、レタス、ほうれんそう等葉茎菜類は前年並の入荷ながら、販売価格は前年比2割安。きゅうり、なす、トマト等の果菜類は前年比2割増で、販売価格は前年比3割安。茸・山菜類は少なめの入荷で、生しいたけ、なめこが小高く、えのき、しめじは前年をやや下回った。

市況に影響しやすい天候・気温の経過は、前年12月の低温から、1月は一転して平年の気温より1~2高かった。このような暖冬傾向もあって、月の後半下げ気配となる品目が続出した。

このような市況の中で、山形産「たらの芽」は順調に入荷し、前年比約1割増の入荷量、50gパック詰めL級200~150円程度とほぼ前年並の価格。食用菊も沖縄産を中心に100gパック100円程度の推移。厳冬期だけに山形産としては150円/100g以上を望みたいところである。直前の産地情報提供や予約相対等取引市場との連携を強化したい

(2月の見通し)

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産前年1月実績	
		前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
だいこん		13,860	107	15,211	115	60	91	2	-
にんじん		7,885	103	8,361	111	60	96		
はくさい		12,190	103	12,067	91	50	72		
キャベツ類		13,997	101	14,111	129	60	101		
ほうれん草		2,302	103	2,258	390	80	361		
ねぎ		4,982	105	4,869	194	98	250		
レタス類		5,885	105	6,804	462	70	294		
きゅうり		5,058	105	5,644	437	80	348		
なす		1,891	107	3,129	418	95	422		
トマト		5,170	103	5,286	335	90	361		
ミニトマト		796	110	826	640	85	633		
にら		819	120	967	753	75	621		
ばれいしょ		8,600	105	9,306	110	80	119		
たまねぎ		10,070	105	11,228	95	80	89		
生しいたけ		1,340	95	1,257	503	108	578	8	0.1
食用菊		15	120	13	2,817	70	2,482	4	26.7

## 概 況

内外エコノミストによる、本年の日本経済の展望は、GDP実質成長率 - 1.0~0.25%で、政府経済見通しの0.0%を下回っている。

1月の月例経済報告によると、

景気の現状は「悪化を続けている」。

個人消費は「弱含んでいる」。

企業倒産は「高い水準でさらに悪化」。

完全失業率は「6%前後」、またはそれ以上の可能性あり。

と示唆しており、景気後退が鮮明化する厳しい立ち上がりとなっている。

このような中で、農林水産省は、農業の構造改革を唱え、

生産者と消費者間の「顔の見える関係」を通して、効率的な安定供給システムの確立。

国際化と輸入増対策として、低コスト、高付加価値、流通システム等産地体制の確立。

新鮮、美味、安心等の提供による消費者の信頼確保（新しい価値創造と食生活見直しへのPR）

等に努めていくとしている。

おいしい山形としては、このような厳しい情勢にあっても、消費者の好みにあったおいしいものをいかに計画的に安定供給していくか。いかに、求められるものを提供しつづけるかが、ポイントである。消費者の利益とか満足を提供しながら、地域地域の基幹品目をブランド化、拡大するよう危機意識を持って取り組んでいきたいものである。

さて、2月の主要品目は、苦戦の続くキャベツ、だいこん、はくさいが中心で、この3品目で総入荷量の約1/3を占める。供給産地は、関東地方を軸に西南暖地となるが、別表のとおり軒並み前年を上回る順調な入荷となる見通し。寒波が強まり入荷が少なくなる事態となれば好転も見込めるが、入荷増の単価安の基調が続きそうである。

昨年は、日本列島の厳しい寒波降雪等が続いたこともあって、野菜全体の販売価格は241円/kgと順調な市況展開となり、一昨年201円/kgを上回った年であり、最近5ヶ年の平均価格を上回る品目が多かった。本年は一昨年並みの200円強の低迷にもどる格好と予想される。

景気、個人消費、市況の上伸等の明るさが待ち遠しいこのごろである。